

地域づくり
Close-up
松尾夢クラブ

松尾山の伝統を活かした 地域の活性化

松尾夢クラブは松尾山の伝統を活かした地域の活性化をテーマに、平成22年、地域づくり活動団体に認定されました。一時期は独自で活動を続けていましたが、平成28年度より改めて地域づくり協議会の加盟団体として活動を始めました。



口はメンバーの北山晴道さん(西友枝)が丹誠込めて収穫したお米です。稲の原種で古代米の一種である黒米も用意しました。ごはんが炊き上がると、すぐにおにぎり作り開始、100gづつ注ぎ分けられたごはんを手際良くにぎり、パックの中へ。手作りのタクアンと高菜炒め、椎茸の佃煮が彩りを添えます。パックに「松尾山お田植祭」の説明入りのラベルを巻いて完成です。お弁当を軽トラックに積み込んで10時30分、松尾山到着。まず、出演者のお田植祭保存会と友枝小学校の皆さんにお弁当を渡し、駐車場付近で来場者を待ちました。「松尾山お田植祭」は「等覚寺のお田植祭」と毎年同じ日に開催されるため、どちらに行こうか迷われた方が多くいました。お弁当を手渡すと「こちらに来ると、このような心遣いがあり、びっくりしました。来年もまた来ますね」「お弁当がいただけるとは思いませんでした。お祭り同様、五穀豊穣に感謝して頂きませ」と言葉をかけてくださりメンバー一同嬉しさがこみ上げてきました。以前クラブの代表を務めていた財城アキ子さん(西友枝)も手作りのよもぎ餅を振る舞い、来場者から喜ばれていました。

活動の和が地域の活性化に

クラブの活動として4年前より、ゆいきら運営委員会主催で開催している、観月祭や灯籠祭りに協力しています。昨年はゆ

伝統の祭りをサポート

松尾夢クラブの主な活動のひとつに、毎年4月に開催される「松尾山お田植祭」でのお弁当の振る舞いがあります。この祭は山伏が豊作を祈るために始まったのがきっかけで、今から1300年以上も前から行われており、長い歴史があります。祭りには「田の草取り」や「田打ち」など地元小学生が参加し、その愛らしい所作に町内外から多くの見物客が訪れています。祭りの開始時間が正午のため、昼食をもちにこられる方が大半でした。振る舞いは「こうして足を運んでくれる皆さんに、来て良かった、また来年も行こうと思ってもらったらどうか」と話し合い始めました。当初は区の公民館を借りて作業をしていましたが、廃校となった西友枝小学校がゆいきららとして地域の活性化の拠点となる施設として再活用されたため、クラブも活動の場がぐんとひろがりました。

地元の食で振る舞いを

4月16日(日)、ゆいきららのキッチンルームに朝6時すぎから続々とメンバーが集まってきました。お天気にも恵まれ、お田植祭は予定通り松尾山で開催することになったのを受け、お弁当の数は前年度と同じ250パックに決定。さっそく仕込みに入ります。この日、用意した白米45キ

いきららのグラウンドが会場となり、「西友枝屋台村」を設置。白むすび、ちらし寿司、からあげなどを販売したのですが、夕方までに完売してしまい楽しみに訪れた方には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。大鍋で作った約200人分のしし汁も、イベントの終了を待たずに完売し、次の反省材料となりました。同じく松尾山を中心に地域づくり活動に取り組んでいる「松尾山修験道回峰行」と連携して行った餅つきは、前日からもち米を洗ったり、杵を用意したりと大変でしたが、私たちが住む地域を活性化しようという思いは同じです。これからも横の繋がりを深め、お互い協力できればと思います。来場者に行ったアンケートに「お神楽やコンサートは広々とした会場でゆつくり見ることができてとても楽しかったです。そして何を食べてもおいしく、いい所だなと思いました」「しし汁やお餅がとてもおいしくて、ふるさとに帰ったような感じがしました」と書かれた方がいたと報告があり本当に良かったなと思えました。

これからも上毛町の西の谷、西友枝に足を運んでもらい、皆さんと協力し、楽しみながら地域や松尾山の良さを伝えていきたいと思えます。今年も秋に開催される灯籠祭りに参加しますのでぜひお越しください。